

京野菜の魅力PR

生産者、台湾の買い付け人に



九条ねぎについて山田社長(手前左)と商談する台湾の買い付け人たち—京都市伏見区・こと京都

京都府などは22日、台湾の高級食材スーパーや食材輸入会社の買い付け人を京都産野菜の産地に案内した。台湾で予定されている物産展などの商材にしてもらうため、生産者が買い付け人に野菜をPRした。

府は11～12月の約1カ月間、府内産食材を使ったコース料理を提供する「京都フェア」を台湾のホテルと開く

予定。関連して府内産食材の物産展や商談会もある。

一連の催事を前に買い付け人3人を招き、この日は万願寺とうがらしや伏見とうがらしなどを紹介した。伏見区の農業生産法人「こと京都」では、山田敏之社長が生産している九条ねぎの特徴を説明したほか、粉末やペースト状にした商品をPR。買い付け人の1人

で、日本の食材を多く輸入している商田實業の林啓森会長は「日本を代表する京都で作られた九条ねぎは訴求力になる」とした。

買い付け人による産地視察は23日もあり、府内のワインや干物魚などの産地を案内する。24日が最終日で、府内の食品会社や生産者が南丹市国際交流会館で買い付け人に自社製品を売り込む。

(矢ヶ村尚幸)